MA1002-A

CASIO

P

5117＊JA

取扱説明書

5117

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。
本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。
なお、この説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。
※本書に記載の製品イラストの中には、視認性を考慮して、実際のものとは異なる描写を行なっているものがあります。ご了承ください。

■本機の特長

- ソーラーパワー
- 電波時計
- ワールドタイム
- ストップウオッチ
- タイマー
- アラーム

ご使用前に十分に光を当ててください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくために、本書に従って、光が当たるようにしてお使いください。
（充電時間については、15 ページの「充電の目安」をご参照ください）

安全上のご注意

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています。
（左の例は感電注意）



⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています。
（左の例は分解禁止）



● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。

※本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。



電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

①金属・皮革に対するアレルギー
②時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
③体調不良等

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

⚠注意

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やケガの予防のため、十分に安全が確認された場所で行なってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計着脱の際に、中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

⚠注意

オートライト作動時のご使用について

オートライト作動状態のとき、本機を腕につけて自動車などを運転すると、不用意にライトが点灯し、運転の妨げになり危険ですのでおやめください。交通事故の原因となることがあります。

目次

安全上のご注意 1

十分に光を当ててご使用ください 8

操作のしくみと表示の見方 10

液晶表示について 12

電源について 13

パワーセービング機能について 16

ライト点灯について 17
- ボタンを押して点灯させる …… 17
- 時計を傾けて点灯させる …… 17

電波時計について 19
- 電波時計とは …… 19
- 標準電波 …… 19
- 電波の受信範囲の目安 …… 20
- 受信時間について …… 22
- 電波受信を行なうときの場所について …… 22
- 受信方法について …… 22
- 自動受信 …… 23
- 手動受信 …… 24
- 受信結果の確認 …… 25
- 受信に関するご注意 …… 26
- こんなときには …… 26

ワールドタイムの使い方 28
- 都市のサーチ …… 28
- サマータイムについて …… 29
- サマータイムの設定 …… 29
- ホームタイム都市との入替え …… 30
- 都市コード一覧 …… 31

ストップウオッチの使い方 32
ストップウオッチ針の見かた …… 32
計測のしかた …… 33

タイマーの使い方 34
タイマー方法について …… 34
タイマーのセット …… 34
タイマーの使い方(減算計測のしかた) …… 35

アラーム・時報の使い方 36
アラームについて …… 36
アラーム時刻のセット …… 36
アラーム・時報のON／OFF設定 …… 38
鳴っている電子音を止めるには …… 38

ホームタイムデータ
(時刻・カレンダー)の合わせ方 39
セットのしかた …… 39

デュアルタイムの合わせ方 42
セットのしかた …… 42

針の基準位置合わせ 43

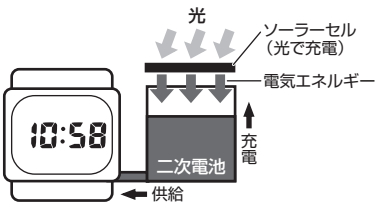
製品仕様 …… 45
ご使用上の注意 …… 54
お手入れについて …… 57
本製品で使用している電池について …… 58
金属バンドの駒詰めについて …… 58

十分に光を当ててご使用ください

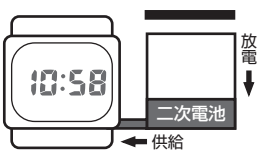
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



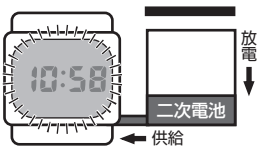
〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは二次電池の容量が減って機能が使えなくなります。

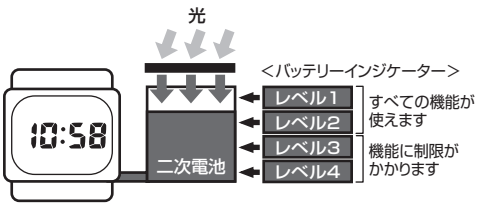
●ライト（表示用照明）をたくさん使うと

ライトを多用すると二次電池の容量は早く減ります。



●時計に光が当たるようにしましょう

- 電池容量を示すバッテリーインジケーターがレベル３になると機能に制限がかかりますので、レベル１、レベル2を保つように光を当ててください。

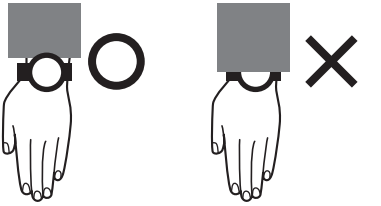


- 腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

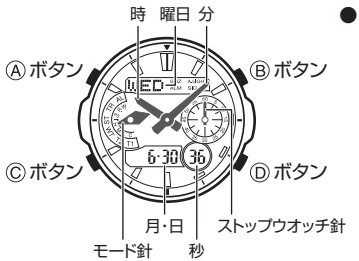
- 腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

操作のしくみと表示の見方

時刻モード

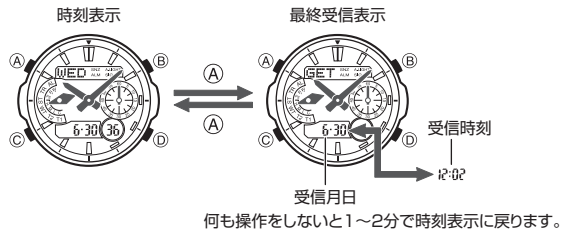


● 時刻モードでは、ホームタイムとデュアルタイム（ホームタイムと別の都市）を見ることができます。

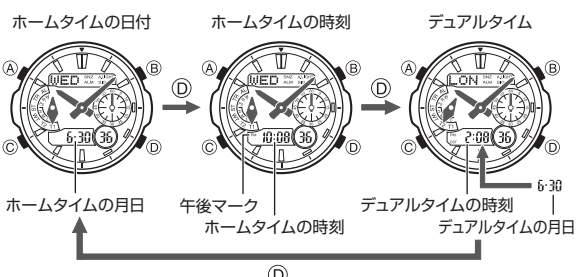
Ⓓボタンを押すたびに、デジタル表示部が右図のように切り替わります。

- ホームタイムを表示しているとき、モード針は「T1」を指します。約1秒経つと、バッテリーインジケーター表示に戻ります。
- デュアルタイムを表示しているとき、モード針は「T2」を指します。約1秒経つと、バッテリーインジケーター表示に戻ります。

● 時刻モードでⒶボタンを押すと電波を受信した日時を表示します。



何も操作をしないと1～2分で時刻表示に戻ります。



●Ⓒボタンを押すとワールドタイムモード、ストップウオッチモード、タイマーモード、アラームモード に切り替わります。

ワールドタイムモード

世界48都市29タイムゾーンの時刻を知ることができます。

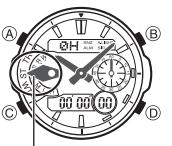


P-28

Ⓒ

ストップウオッチモード

1/100秒単位で23時間59分59秒99(24時間計)まで計測できます。

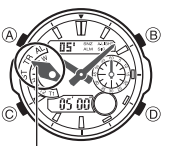


P-32

Ⓒ

タイマーモード

1分単位で60分間までセットでき、セットした時間を経過すると10秒間の電子音が鳴ります。

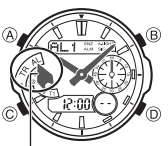


P-34

Ⓒ

アラームモード

アラーム時刻のセットや時報のON/OFFができます。



P-36

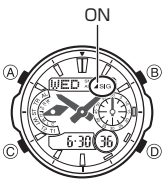
Ⓒ

液晶表示について

製品によって、液晶表示のタイプが異なります。
なお、本書に記載しているイラストは、視認性を考慮して「白地に黒」で描写しております。ご使用になる製品によっては、本書に記載しているイラストの黒い部分（「時刻」、「機能がONになっているときに点灯するインジケーターやマーク」など）が、「白または他の色で表示される」と置き換えてご覧ください。

※液晶表示のタイプは製品によって決まっているため、1つの製品でタイプを切り替えることはできません。

<Aタイプ>



<Bタイプ>



電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル5)、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーインジケーター(R)が点滅している場合

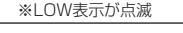
ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーインジケーターが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- タイマーのタイムアップ報音
- 運針

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



●バッテリーインジケーターの見方

レベル1		すべての機能が使用可能
レベル2		すべての機能が使用可能
レベル3	 ※LOW表示が点滅	ライト点灯不可、アラーム、時報などの報音不可、電波受信不可
レベル4		液晶表示不可、ライト点灯不可、アラーム、時報などの報音不可、電波受信不可
レベル5		時計機能停止（時計発振不可）

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。

※レベル５になっても再度充電を行なうことで使用できます。

※レベル５から充電したときは、レベル２になると表示が点灯し、機能が使用できるようになります。

※レベル５ になるとホームタイム都市がリセットされ「TYO」に戻ります。「TYO」以外のホームタイム都市を設定していた場合は再度、設定し直してください。

●充電必要サイン

レベル3、レベル4の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。
また、頻繁にリカバーインジケーターが点滅する場合も電池残量が少なくなっていますので光を当てて充電してください。

●充電時のご注意

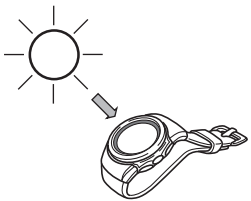
以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

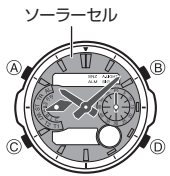
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

> ⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。





※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作*に加え、下記の使用例で使用した場合に約6ヵ月間動き続けます。

使用例
- ライト：1.5秒間／日
- アラーム報音：10秒間／日
- 電波受信：4分／日
- 表示点灯：18時間／日

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約8分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

●各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間 レベル5→レベル4→レベル3→レベル2→レベル1		
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約2時間	約22時間	約6時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約7時間	約82時間	約22時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約10時間	約133時間	約36時間
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約113時間	― ― ―	― ― ―

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」を ON に設定してあります。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  午後 10 時～午前 6 時の間、暗いところで本機を約 1 時間放置します。
  ※ タイマーモード、ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。
  ➡液晶表示が消え、モード針がパワーセービングマーク（PS）を指します。また、ストップウオッチ針が 60 の位置で停止します。アラーム、時報の報音、タイマーのタイムアップ報音は鳴ります。



パワーセービングマーク

- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
  ➡時分針が12時位置で停止します。
  アラーム、時報の報音、タイマーのタイムアップ報音は鳴りません。
  自動受信も行ないません。
  ※ 内部では時計機能が正常に動作しています。

●スリープ状態を解除するには

- 本機を明るいところに置く
- 本機のいずれかのボタンを押す
- 本機をオートライト機能が動作する角度まで傾ける（17 ページ）

※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大 2 秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能の ON ／ OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには39ページをご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

ライト点灯について

暗い場所で表示を見るときは、ボタンを押してライトを点灯させることができます。また、時計を傾けると自動的にライトが点灯するオートライト機能もあります。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ボタンを押して点灯させる
～手動点灯～

どのモードのときでも、

Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓑ ボタンを押すとライトが点灯します。



※オートライト OFF のときも Ⓑ ボタンを押すと点灯します。

■時計を傾けて点灯させる
～オートライト機能～

どのモードのときでも、時計を傾けるだけでライトが約 1.5 秒間点灯します。
※明るいときは、自動点灯しません。

準備：時刻モード（セット中以外）で、Ⓑ ボタンを約３秒間押し続けて、オートライトON（オートライトＯＮマーク点灯）にします。



※オートライト ON のとき、Ⓑ ボタンを約３秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトＯＮマーク消灯）に戻ります。

●ライトを点灯させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を± 15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると表示しにくくなります。



〈ライト点灯についてのご注意〉

- ●直射日光下では点灯が見えにくくなります。
- ●点灯中にアラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。
- ●ライトは、電波受信中は点灯しません。

〈オートライトご使用時の注意〉

- ●オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- ●時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- ●時計を傾けたとき、ライトの点灯が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- ●ライト点灯後、時計を傾けたままにしておいても、点灯は約1.5秒間のみとなります。
- ●バッテリーインジケーターがレベル4になると、自動的にオートライトOFFになります。
- ●時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても点灯することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。

- ●静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、点灯しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも点灯しにくいときは、腕を下からふりあげてみると点灯しやすくなります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のずれが生じます。

■ 標準電波

- 日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県の「おおたかどや山（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山（60kHz）」から送信されています。
- 中国の標準電波（BPC）は中国科学院の国家授時中心（NTSC）が運用しており、河南省商丘市から送信されています。
- アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州にあるフォートコリンズから送信されています。
- イギリスの標準電波（MSF）はNational Physical Laboratory（NPL）が運用しており、イングランド北部のアンソーンから送信されています。
- ドイツの標準電波（DCF77）はPhysikalisch-Technische Bundesanstalt（PTB）が運用しており、フランクフルト南東に位置するマインフリンゲンから送信されています。

※標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

日本の標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）日本標準時プロジェクトのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp/

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

■電波の受信範囲の目安

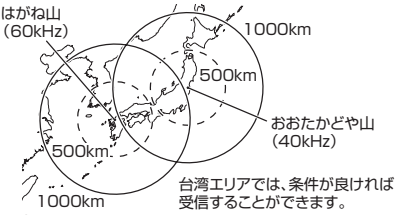
本機は、ホームタイム都市を下記の都市に設定すると、その都市に対応した標準電波を受信します。
※ホームタイム都市の設定については 39 ページ参照。都市コードについては 31 ページ参照。

ホームタイム都市（受信機能対応都市）	受信電波
TYO、TPE、SEL	日本の標準電波（JJY）
HKG、BJS	中国の標準電波（BPC）
(HNL)、(ANC)、LAX、DEN、CHI、NYC、YVR、YEA、MEX、MIA、YTO、YHZ、YYT	アメリカの標準電波（WWVB）
LON、PAR、BER、ATH、LIS、MAD、ROM、STO、(MOW)	イギリスの標準電波（MSF）、ドイツの標準電波（DCF77）

※（　）内の各都市は、条件が良ければ受信する場合もあります。

送信所の位置

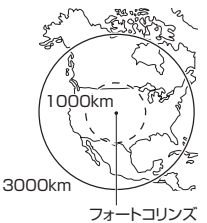
<日本（JJY）>



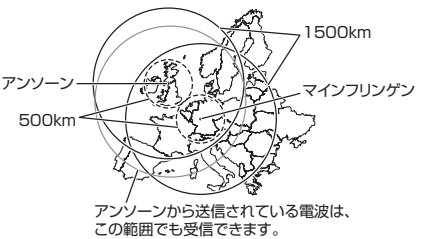
<中国（BPC）>



<アメリカ（WWVB）>



<イギリス（MSF）/ドイツ（DCF77）>



●受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。
※受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯（昼・夜）、各種ノイズ

●本機をご使用になる国と標準電波を送信している国で、サマータイム制度（サマータイムの有無や実施期間など）が異なる場合、正しい時刻が表示されないことがあります。

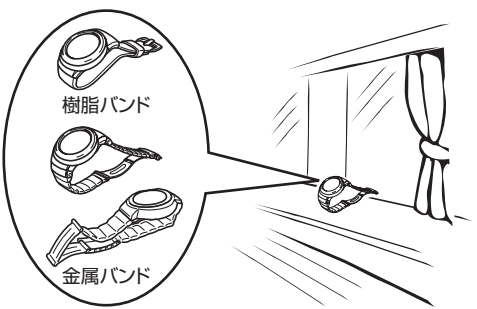
■受信時間について

受信時間はおよそ２～７分です。

※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大14分かかる場合があります。

■電波受信を行なうときの場所について

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●ご注意

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、
ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコン、携帯電話など）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。

●自動受信：１日最大６回（中国電波は１日最大５回）
●手動受信：必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます

■ 自動受信

●自動受信を行なうときは、以下の操作を行なってください。
- 時刻モードのホームタイム都市に、現在地で受信可能な電波に対応した都市を設定する（20～21ページ、39ページ参照）
- 10ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがって「時刻モード」または「ワールドタイムモード」にする
- 下記の表中の「自動受信開始時刻」前に、22ページの「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置く

●時刻モードの時刻（10ページ参照）が下記の表中の自動受信開始時刻になると、1日最大6回（中国電波は1日最大5回）、自動的に受信を行ないます。ただし、1日1回受信が成功すれば、それ以降、その日の自動受信は行ないません。また、自動受信開始時刻は、設定したホームタイム都市やサマータイム設定によって異なります。

※サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻（スタンダードタイム）から1時間進める夏時間制度のことです。

※サマータイムを採用していない国や地域があります。

※サマータイムを採用していても、その期間は国や地域により異なります。

ホームタイム都市		自動受信開始時刻					
		1	2	3	4	5	6
TYO、TPE、SEL	通常時刻	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
HKG、BJS	通常時刻	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	–
HNL、ANC、LAX、DEN、CHI、NYC、YVR、YEA、MEX、MIA、YTO、YHZ、YYT	通常時刻 サマータイム	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
LON、LIS	通常時刻	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時
	サマータイム	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
PAR、BER、MAD、ROM、STO	通常時刻	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
	サマータイム	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
ATH	通常時刻	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
	サマータイム	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時
MOW	通常時刻	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時
	サマータイム	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時	翌日午前4時

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正して、自動受信を開始する前のモードの表示に戻ります。

※受信中、デジタル表示は消えます。

★受信が失敗すると

時刻修正は行なわずに、自動受信を開始する前のモードの表示に戻ります。

■ 手動受信

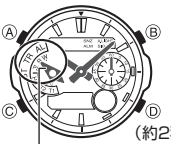
必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます。

●手動受信を行なうときは、以下の操作を行なってください。

- 時刻モードのホームタイム都市に、現在地で受信可能な電波に対応した都市を設定する（20 ～ 21 ページ、39 ページ参照）
- 10ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがって「時刻モード」にする
- 22ページの「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置く

時刻モードのとき

Ⓐボタンを約2秒間押し続けます



（約2秒間）

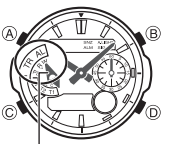
READY（またはR）

➡確認音が鳴り、モード針が「READY」（または「R」）位置に移動します。

※時針、分針は通常通り運針します。

★受信中は

- 受信中はモード針が受信状況を指します。
  「READY」（または「R」）：不安定な受信
  「WORK」（または「W」）：安定した受信



WORK（またはW）

※安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。

※受信が完了するまで、時計を動かさないでください。

※受信しやすい場所でも、安定するまで約 10 秒ほどかかります。

※受信状況は、受信状態の確認および受信場所を決める際の目安としてお使いください。

※天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

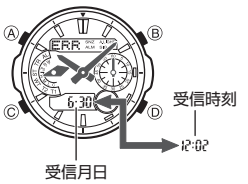
★受信完了

- 受信が成功すると“GET”を表示し、時刻を修正します。

※“GET”表示後は、Ⓐ ボタンを押すか、1～2分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

- 受信が失敗すると、“ERR”を表示します。

※“ERR”表示後は、Ⓐ ボタンを押すか、1～2分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。



★受信を中止するときは

いずれかのボタンを押します

■受信結果の確認

時刻モードのとき

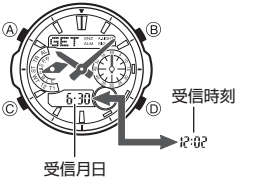
Ⓐ ボタンを押します

➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。

※一度も受信に成功しなかったときは、“- - : - -”を表示します。

※時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓐ ボタンを押します。

※1～2分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。



■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。

●以下のときは、電波受信を行ないません。
・タイマー計測中のとき
・バッテリーレベルがレベル3または4のとき
・リカバー状態のとき
・パワーセービング中（機能スリープ時）

●自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行なわないときは、製品仕様に記載の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。

●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できません。

●電波の送信が中断されていませんか。
電波時計が利用している標準電波は、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

●電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、20ページの「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。

●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください（22ページの「電波受信を行なうときの場所について」参照）。

●ホームタイム都市が正しく設定されていますか。
39ページの「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

●タイマーが計測中になっていませんか。
タイマー計測中は電波受信を行ないません。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻が合っていません。

●ホームタイム都市が正しく設定されていますか。
39ページの「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。
●針が基準位置からずれていませんか。
強い磁気や衝撃を受けると、針が基準位置からずれることがあり、正しい時刻を表示できません。詳しくは 43 ページの「針の基準位置合わせ」をご覧ください。

★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時、電池交換後、レベル５からの充電時には、以下の内容でセットされています。

ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	AUTO	電波受信による自動切替え

サマータイムについては 29 ページをご覧ください。

ワールドタイムの使い方

10ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界48都市（29タイムゾーン）の時刻を知ることができます。また、ワールドタイムモードで選んでいる都市を、ホームタイム都市と入れ替える（ホームタイム都市に設定する）こともできます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。
※ワールドタイムの「秒」はホームタイムの「秒」に連動しています。
※ホームタイム（基本時刻）を24時間制にしているときは、ワールドタイムも24時間制で表示されます。

■ご注意■

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

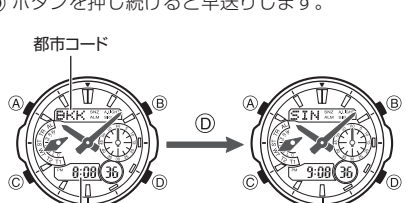
* セットについては39ページ参照。

■都市のサーチ

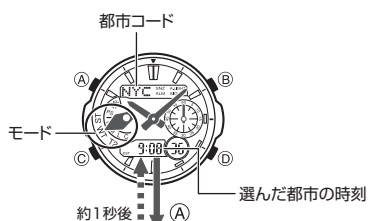
ワールドタイムモードのとき、

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進みます。
※Ⓓ ボタンを押し続けると早送りします。



※都市をサーチしてからⒶボタンを押すと、その都市の日付を表示します。約1秒後に、時刻表示に戻ります。



■サマータイムについて

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻（スタンダードタイム）から1時間進める夏時間制度のことです。

- ●サマータイムを採用していない国や地域があります。
- ●サマータイムを採用していても、その期間は国や地域により異なります。

■サマータイムの設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓓボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐボタンを約3秒間押し続けます



➠Ⓐボタンを約3秒間押し続けるごとにサマータイム（ON）とスタンダードタイム（OFF）が切り替わります。

※サマータイムのときは、DSTマークが点灯して、スタンダードタイムより1時間進みます。

※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、“UTC”にはサマータイムの設定はできません。

※ホームタイムで設定している都市のサマータイム設定を切り替えたときは、ホームタイム（基本時刻）も連動して切り替わります。

■ホームタイム都市との入替え

現在ワールドタイムモードで選んでいる都市を、ホームタイム都市と入れ替える（ホームタイム都市に設定する）ことができます。

例：ホームタイム都市を東京（TYO）からニューヨーク（NYC）に設定する。

	ホームタイム都市	ワールドタイムモードでの都市
操作前	東京（TYO）	ニューヨーク（NYC）
操作後	ニューヨーク（NYC）	東京（TYO）

1. 都市を選ぶ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

※ Ⓓ ボタンを押し続けると早送りします。



2. ホームタイム都市を入れ替える

Ⓐ ボタンとⒷ ボタンを同時に押します。



➡確認音が鳴り、*1.*で選んだ都市（ニューヨーク）がホームタイム都市になります。

※ 操作を行なう前のホームタイム都市（東京）がワールドタイムモードの選択都市になり、ワールドタイムモードの時刻が修正されます。

■ご注意■

日本でお使いの場合は、必ずホームタイム都市を「TYO」に設定してください。
「TYO」でない場合は、電波受信ができなくなったり、時刻がずれたりします。

■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
UTC	0	〈協定世界時〉	SEL	+9	ソウル
LIS	0	リスボン	TYO	+9	東京
LON	0	ロンドン	ADL	+9.5	アデレード
MAD	+1	マドリード	GUM	+10	グアム
PAR	+1	パリ	SYD	+10	シドニー
ROM	+1	ローマ	NOU	+11	ヌーメア
BER	+1	ベルリン	WLG	+12	ウェリントン
STO	+1	ストックホルム	PPG	−11	パゴパゴ
ATH	+2	アテネ	HNL	−10	ホノルル
CAI	+2	カイロ	ANC	−9	アンカレジ
JRS	+2	エルサレム	YVR	−8	バンクーバー
MOW	+3	モスクワ	LAX	−8	ロサンゼルス
JED	+3	ジェッダ	YEA	−7	エドモントン
THR	+3.5	テヘラン	DEN	−7	デンバー
DXB	+4	ドバイ	MEX	−6	メキシコシティ
KBL	+4.5	カブール	CHI	−6	シカゴ
KHI	+5	カラチ	MIA	−5	マイアミ
DEL	+5.5	デリー	YTO	−5	トロント
DAC	+6	ダッカ	NYC	−5	ニューヨーク
RGN	+6.5	ヤンゴン	SCL	−4	サンティアゴ
BKK	+7	バンコク	YHZ	−4	ハリファックス
SIN	+8	シンガポール	YYT	−3.5	セントジョンズ
HKG	+8	香港	RIO	−3	リオデジャネイロ
BJS	+8	北京	RAI	−1	プライア
TPE	+8	台北			

※この表は 2009 年 12 月現在作成のものです。
※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。
※各国の時差およびサマータイムは国の都合により変更されることがあります。

ストップウオッチの使い方

10ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは 1/100 秒単位で 23 時間 59 分 59 秒 99（24 時間計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に 0 に戻って計測し続けます。

■ ストップウオッチ針の見かた

ストップウオッチ針はストップウオッチモードと連動して、計測しているタイムの「分」をすべてのモードで表示します。ストップウオッチの計測を停止すると、ストップウオッチ針は計測タイムの「秒」を指します。

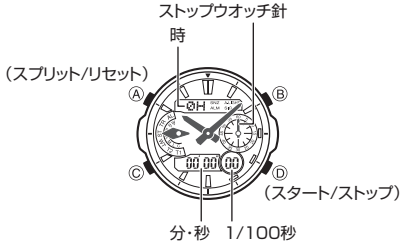
- 計測開始直後の 1 秒間は 1 秒かけて 1 周します。そのあと 1 分まではストップウオッチの秒を表します。1 分を過ぎてからはストップウオッチの分を表します。

■計測のしかた

ストップウオッチモードのとき、

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



- 計測中にⒶ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります（SPL 表示）。
  ※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
- 計測ストップ時にⒶボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。

●通常計測

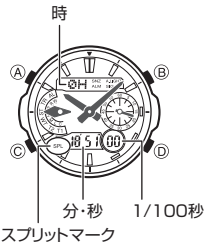
Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

積算計測… 計測を止めてからリセットせずに Ⓓ ボタンを押すと、表示タイムに引き続き計測が再開されます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓐ スプリット計測 → Ⓐ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

<スプリット計測中>



●1・2着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓓ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

タイマーの使い方

10ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマー時間は分単位で60分までセットすることができ、1秒単位で減算計測を行ないます。
また、タイムアップ後も自動的に計測を繰り返すオートリピートタイマーとしても使えます。

■ タイマー方法について

本機のタイマーは以下の2種類があり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。

* タイマー方法の選び方については右記参照。

●リピートタイマー（繰り返し計測）

タイムアップすると、タイマー時間を表示して、計測が止まります。同じ時間を何回も計測するときに便利です。

●オートリピートタイマー(自動繰り返し計測)

タイムアップしても、計測ストップするまで自動的にタイマー時間に戻り、繰り返し計測を行ないます。

※繰り返し計測は合計 8 回行なうと、自動的に計測がストップします。

■ タイマーのセット

1. セット状態にする
タイマーモードのとき、

Ⓐ ボタンを約 3 秒間押し続けます

➡タイマー時間の「分」が点滅します。



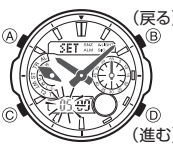
タイマー時間(分)

2. タイマー時間をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 分ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。



※ タイマー時間は1分(01'00)～60分(60'00)までセットできます。

3. タイマー方法を選ぶ

Ⓒ ボタンを押してから、Ⓓ ボタンを押します



➠Ⓓ ボタンを押すごとにリピートタイマー（OFF 表示）とオートリピートタイマー（ON 表示）が切り替わります。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➠点滅が止まり、セット完了です。

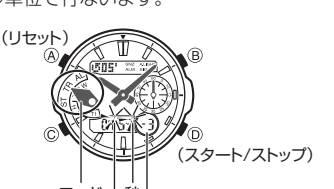
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ タイマーの使い方(減算計測のしかた)

Ⓓ ボタンを押します

➠Ⓓ ボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。

※計測は 1 秒単位で行ないます。



★計測ストップ後 Ⓐ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（リセット）。

★ Ⓓ ボタンを押すと一時的に計測を止めることができます。再び Ⓓ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を再開します。

アラーム・時報の使い方

10ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、アラームモードにします。

■ アラームについて

●通常アラーム（AL1 ～ AL4）

設定した時刻になると 10 秒間の電子音が鳴ります。

●スヌーズアラーム（SNZ）

設定した時刻になると 10 秒間の電子音が鳴り、5 分おきに合計 7 回報音を繰り返します。
なお、ボタンを押して音を止めても再び鳴り出します。

●時報（SIG）

毎正時（00 分）に時報を鳴らすこともできます。

※アラームモードのまま 2 ～ 3 分間ボタン操作をしないで放置しておくと、時刻モードに自動的に戻ります。

■ アラーム時刻のセット

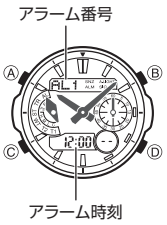
1. アラームを選ぶ

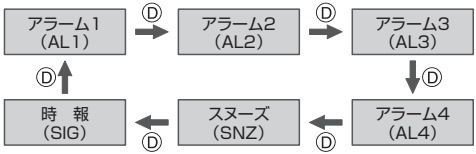
アラームモードのとき、

Ⓓ ボタンを押します

➡ Ⓓ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わりますので、設定したいアラームを選びます。

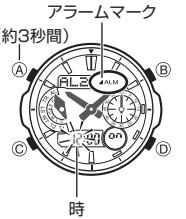
※ アラームモードに切り替えた直後は、前回このモードで最後に表示していたアラームを表示します。





2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 3 秒間押し続けます



➡「時」が点滅します。

※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームが ON になります。

※ セット状態で2〜3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

3. 「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

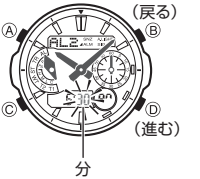
※ それぞれ押し続けると早送りします。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）または 24 時間制にご注意ください。

※ 基本時刻を 24 時間制にしているときは、アラーム時刻も 24 時間制で表示されます。

4. 「分」をセットする

Ⓒ ボタンを押します



➡「分」が点滅します。
「分」も「時」と同様に Ⓓ または Ⓑ ボタンでセットします。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

■ アラーム・時報のON／OFF設定

準備：アラームモードのとき、Ⓓボタンを押して、鳴らしたいアラームを選びます。また、時報を鳴らしたいときは時報表示を選びます。

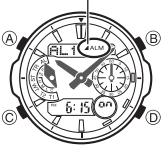
Ⓐ ボタンを押します

➟Ⓐボタンを押すごとにアラームまたは時報のON（on表示）／OFF（- -表示）が切り替わります。

※それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。

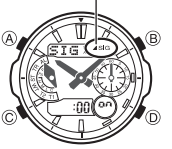
<アラーム1表示>

アラームマーク



<時報表示>

時報マーク



■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等を合わせることです。
※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。
※パワーセービング機能の ON ／ OFF 設定も以下の操作で行ないます。

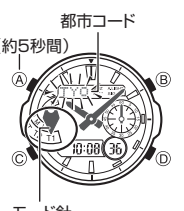
デジタルのホームタイムデータを修正すると、アナログの時刻も連動して、自動的に修正されます。
もし、デジタルのホームタイムデータを修正しても、あるいは電波受信を行なっても、アナログの時刻が合っていない場合、針の基準位置を確認し、必要に応じて基準位置を合わせてください（43 ページ参照）。

■ セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき、

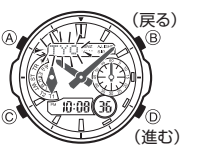
Ⓐ ボタンを約 5 秒間押し続けます



➡都市コードが点滅します。
※ モード針は「T1」を指します。
※ 約２秒後に確認音が鳴り、モード針が「READY」（または「R」）位置に移動しますが、約5秒間そのまま押し続けてください。
※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

2. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域（都市）を選びます。

＊ 31 ページ「都市コード一覧」参照。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

3.「サマータイム設定」にする

Ⓒ ボタンを押します

➡サマータイムの切り替えになります。



4. サマータイムを切り替える

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



● AUTO 電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。
● OFF サマータイムは OFF になります（通常時間）。
● ON サマータイムは ON になります（夏時間）。 ※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。

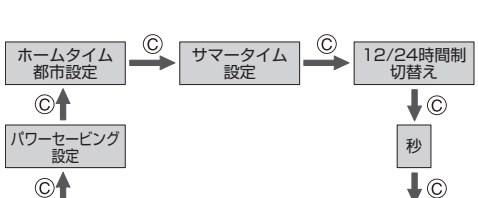
※ホームタイム都市が受信機能対応都市（20 ページ参照）以外のときは、「OFF」⇔「ON」で表示が切り替わります。

5. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。





6. 点滅箇所のセット

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ または Ⓑ ボタンで点滅箇所をセットします。

a.「12/24時間制切替え」のとき

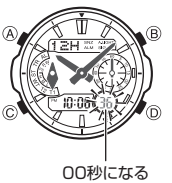
Ⓓボタンを押すごとに12時間制表示“12H”と24時間制表示“24H”が切り替わります。



b.「秒」セットのとき

Ⓓボタンを押すと「00秒」からスタートします。

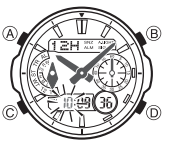
※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。(時報は「時報サービス117番」が便利です)



c.「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※Ⓓ・Ⓑボタンとも、押し続けると早送りができます。



d.「パワーセービング設定」のとき

Ⓓ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON／OFFが切り替わります。



Ⓒボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓまたは Ⓑボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前／午後 (P)、または24時間制にご注意ください。

※「年」は2000年～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

デュアルタイムの合わせ方

時刻モードでは、ホームタイムの他にもうひとつの都市の時刻を見ることができます。この時刻を、デュアルタイムと呼びます。

※デュアルタイムの表示方法は、10ページをご覧ください。
※デュアルタイムのセットは時刻モードで行ないます。
※サマータイムの設定は、ワールドタイムモードで切り替えます。

■セットのしかた

1. ホームタイムデータのセット状態にする

時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを約 5 秒間押し続けます



➡ホームタイムの都市コードが点滅します。

※ 約2秒後に確認音が鳴り、モード針が「READY」(または「R」) 位置に移動しますが、約5秒間そのまま押し続けてください。

※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

2. デュアルタイムのセット状態にする

もう一度、Ⓐ ボタンを押します



➡デュアルタイムの都市コードが点滅します。

※ モード針は「T2」を指します。

3. デュアルタイム都市を選ぶ

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域（都市）を選びます。

* 31 ページ「都市コード一覧」参照。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

針の基準位置合わせ

強い磁気や衝撃を受けると、針が基準位置からずれることがあり、電波受信を行なっても正しい時刻を表示できません。以下の操作を行なって針の基準位置を確認し、ずれている場合は、基準位置を合わせてください。

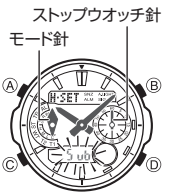
※時刻が合っているときは、針の基準位置合わせを行なう必要はありません。

1. 基準位置確認状態にする

時刻モードのとき

Ⓓボタンを約3秒間押し続けます

➡押し続けると約３秒後に「H-SET」を表示します。そのあと、モード針とストップウオッチ針が基準位置に移動して停止します。



〈基準位置〉
モード針：Cの位置
ストップウオッチ針：60の位置

★モード針とストップウオッチ針が基準位置にある場合は、手順 *3.* に進みます。

※基準位置確認状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に確認状態が解除されます。
なお、確認状態が解除されるまでに行なった変更は保持されます。

モード針やストップウオッチ針がずれている場合

2. 基準位置を合わせる

モード針：Ⓑ ボタンを押します
ストップウオッチ針：Ⓓボタンを押します

➡針が時計回りで回転しますので、基準位置に合わせます。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンともボタンを押し続けると、ボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

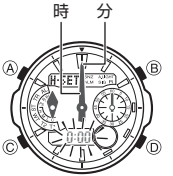


3. 時・分針を確認する

Ⓒボタンを押します

➡時·分針が基準位置に移動します。

〈基準位置〉
時針：12 時位置
分針：12 時位置



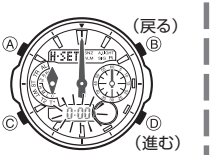
★時・分針が基準位置にある場合は、手順 *5.* に進みます。

時針と分針がずれている場合

4. 基準位置を合わせる

ⒹまたはⒷボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。



※ Ⓓ·Ⓑボタンとも押し続けると、ボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

5. 基準位置合わせを終わる

Ⓐボタンを押します

➡時刻モードに戻り、通常の時刻を表示します。

※ Ⓐボタンを押さずにⒸボタンを押すと、最初のモード針とストップウオッチ針の基準位置確認に戻ります。



基準位置合わせが終了したら、時刻などがずれていないことをご確認ください。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
精　　度：電波受信による時刻修正が行なえない場合は、平均月差±15秒以内
基本機能：アナログ部＝時・分（10秒運針）・モード針・ストップウオッチ針
デジタル部＝時・分・秒、午前／午後(P)／24時間制表示
曜日・月・日、フルオートカレンダー（2000～2099年）
ホームタイム／デュアルタイム表示切替え機能
電波時計機能：自動受信・手動受信
受信日時確認機能
サマータイム自動切替え
受信局自動選択機能（JJY、MSF/DCF77で対応）
受信電波＝
コールサイン：JJY(40kHz/60kHz)、WWVB(60kHz)、MSF(60kHz)、DCF77(77.5kHz)
BPC(68.5kHz)

ワールドタイム機能：世界48都市（29タイムゾーン）の時刻を表示、サマータイム設定機能、ホームタイム都市との入替え機能
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒
計測範囲＝23時間59分59秒99（24時間計）
計測機能＝通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
ストップウオッチ針：
ストップウオッチモードの場合、計測を始めて最初の1秒間で1周、そのあと1分までは秒針、1分を超えると分針として機能。その他のモードの場合、常に分針として機能。
タイマー機能：セット単位＝1分
計測範囲＝60分間
計測単位＝1秒
タイムアップを10秒間の電子音で報知
リピートタイマー／オートリピートタイマー切替え
アラーム機能：時刻アラーム
アラーム数＝5本（内スヌーズ1本）
セット単位＝時・分
電子音＝10秒間
時報　毎正時に2回電子音で報知

そ　の　他：自動復帰機能、12/24時間制表示切替え、LED ライト、フルオートライト、パワーセービング機能、バッテリーインジケーター表示

主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子
ワンチップCMOS-LSI

使用電池：二次電池

持続時間：約６ヵ月
（ライト1.5秒間／日、電子音10秒間／日、表示点灯18時間／日、電波受信4分／日）


memo


memo


memo


memo

memo


memo

memo

ご使用上の注意

■防水性

● 防水時計は時計の表面または裏蓋に「WATER RESIST」「WATER RESISTANT」と表示されているもので、次のように分類されます。

		日常生活用防水	日常生活用強化防水		
			5気圧防水	10気圧防水	20気圧防水
表示	時計の表面または裏蓋に表記	「BAR」表記無し	5BAR	10BAR	20BAR
使用例	洗顔、雨	○	○	○	○
	水仕事、水泳	×	○	○	○
	ウインドサーフィン	×	×	○	○
	スキンダイビング(素潜り)	×	×	○	○

- 専門的な潜水＝スキューバダイビング（空気ボンベ使用）でのご使用はお避けください。

● 時計の表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANTと表示されていないものは防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
● 防水構造の機種でも水中や、水分のついたまま、りゅうずやボタンの操作をしないでください。
● 防水構造の機種でも、時計をつけたままの入浴、洗剤等（石鹸・シャンプーなど）のご使用をお避けください。防水性能を低下させる原因となります。
● 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
● 防水性を保つために定期的（2～3年を目安）なパッキン交換をおすすめします。
● 電池交換の際、防水試験を行ないますので、必ずお買い上げの販売店あるいは最寄りのカシオテクノリペアセンターにお申し付けください（特殊な工具を必要とします）。
● 防水時計の一部にデザイン上、皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。
● 時計が急冷された場合など、ガラスの内側が曇ることがありますが、すぐに曇りが無くなるようであれば特に問題はありません。曇りが消えなかったり、水が時計内部に浸入した場合は、そのままご使用にならず、ただちに修理することが必要です。
● 時計内部に浸入した水は、電子部品や機械、文字板などを破損する原因となります。

■バンド

● バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
● バンドは劣化やさび（錆）などにより切れたり外れたりする場合があり、時計の落下や紛失の原因となります。バンドは、常にお手入れしていただき、清潔にご使用ください。
バンドに弾力性がなくなったり、ひび割れ・変色・緩みなどがある場合は、お早めに点検・修理（有償）または新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノリペアセンターにバンド交換（有償）をお申し付けください。

■温度

- 自動車のダッシュボードや暖房器具の近く等の高温になる場所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったり、故障の原因となります。
- ＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。液晶表示は、0℃以下や＋40℃以上では、表示が見えにくくなることがあります。

■ショック

- 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。
  ただし、耐衝撃構造の時計の場合（G-SHOCK/Baby-G/G-ms）は腕につけたままでチェーンソーなどの強い振動や、激しいスポーツ（モトクロスなど）でのショックを受けても時計には影響ありません。

■磁気

- アナログ時計やコンビネーション（アナログとデジタル）時計は、針を動かすために磁石の性質を利用したモーターを駆動させる方式を採用していますが、このモーターは強い磁気（オーディオ機器のスピーカー、磁気ネックレス、携帯電話など）を発生する器具に近づけるとモーターの回転に影響を受け、針の「遅れ・進み・止まり・誤った時刻表示」などの原因となります。

■静電気

- 静電気により誤った時刻を表示したりします。また、極度に強い静電気は、電子部品を破損する恐れがあります。
- 静電気により、一時的に液晶の点灯していない部分ににじみ現象が発生することがあります。

■薬品類

- シンナー、ガソリン、各種溶剤、油脂またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類等が付着すると、樹脂ケース、樹脂バンド、皮革などに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■保管

- 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■樹脂製品について

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が樹脂製品に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま放置すると色あせする場合があります。
- 塗装部品は、使用状況（過度の外力、連続したこすれ、衝撃等）により磨耗し色落ちしたりすることがあります。
- バンドにプリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。

- 蛍光商品は、長時間濡れたままにしておくと色が落ちる恐れがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
- スケルトン（透明）仕様の部品は、汗や汚れ等の吸収や高温多湿への放置により変色を起こすことがあります。
- 樹脂部品の交換は、最寄りのカシオテクノリペアセンターにお申し付けください。有償にて申し受けます。

■天然皮革・合成皮革バンドについて

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が天然皮革や合成皮革に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま長時間放置すると色あせする場合があります。

  ご注意：天然皮革・合成皮革は、摩擦・汚れにより色を移したり、色落ちすることがあります。

■金属製品について

- 金属を使用した製品・バンドは、ステンレスやメッキ品でも汚れたままご使用になりますと、さび（錆）が発生することがあります。汗をかいたときや水に濡らしたときは、柔らかい吸湿性の良い布などで良く拭き取った後に、通気性の良い場所に保管し、良く乾燥させてください。
- バンドは、時々、柔らかい歯ブラシなどにより、中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水でバンドを洗って、良く手入れをしてください。このとき、時計の本体にかからないようご注意ください。

■抗菌防臭バンドについて

- 抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

■液晶表示について

- 液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなることがあります。

万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

■お手入れのしかた

- ケース·バンドは汚れからさびが発生し、衣服の袖口を汚したり、皮膚がかぶれたり時計の性能が劣化することがあります。ケース·バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとさび易くなります。
- 樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また布等で簡単にふきとることができます。
- 皮革バンドは乾いた布で軽く拭くなどして常に清潔にしてご使用ください。樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。
- バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノリペアセンターにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても有償にて申し受けます。
- 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗·水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。

■お手入れを怠ると

〈さび（錆）〉

- 時計で使用している金属はさびにくい性質ですが、汚れによりさびが発生します。
  - 汚れにより酸素が絶たれると、表面の酸化皮膜が維持できなくなり、さびが発生します。
- 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやさびがしみ出して、衣類の袖を汚したり、皮膚がかぶれたり、時計の性能が劣化することがあります。

〈劣化〉

- 樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に放置すると経年劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

〈かぶれ〉

- 皮膚の弱い方や体調により、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

本製品で使用している電池について

- 専用の二次電池を使用しておりますので、お客様は電池を取り外さないでください。専用の二次電池以外の電池を入れると時計の破損の原因になります。
- 二次電池は、ソーラーセルが受ける光により充電されますので、定期的な電池交換の必要はありません。ただし、長年の充電と放電を繰り返すことにより性能が劣化して、充電しても使用時間が短くなることがあります。その場合は、お買い上げの販売店またはカシオテクノお客様修理相談センターにご相談ください。

金属バンドの駒詰めについて

金属バンドの駒詰めには専用の工具が必要となります。
お取り扱いによる、部品の変形や破損、またはケガ等を予防するためにも、お買い上げの販売店にご相談ください。
なお、カシオテクノ・サービスステーションにおいても保証期間内は無償、保証期間経過後は有償にて承っております。
詳しくは、最寄りのカシオテクノ・サービスステーションまたはカシオテクノお客様修理相談センターへお問い合わせください。